

# 都市活性化のための世博会の役割と手法

## 「世博会は人材道場」

2005. 11. 26. 新藤健一郎

国の豊かさを見る時、表の顔である“経済力”が評価されますが、その原動力となる“人材力”を軽視してはなりません。

私は“人材の豊かさ”こそ“国の豊かさ”と考えて長年人材育成とその活用に努めてきました。

今日の私のスピーチのテーマ「都市活性化のための世博会の役割と手法」を語るには時間の制約上無理がありますので、「人材の活用」に絞って話します。

世博会を含むEVENTは期間限定の単なる祭りではありません。EVENTはある課題を解決するための手段の一つに過ぎないことはみなさんご承知の通りです。

しかし、その手段の世博会が今日のテーマの都市活性化に大変有効であることも周知の事実です。その一つには世博会の準備から開催に至る長い期間に人材が育つからです。

私は世博会は「人材道場」であると考えています。

それでは本題に入りましょう。

### 1. 「3物資源」の活用

国および地域には3物資源があります。

それは“風物”、“産物”、“人物”です。

・「風物」とは、その国の歩んできた歴史であり、遺産であり、風景や伝統芸能などに代表される資源です。

・「産物」とは、農業、商業、工業に代表される特産品資源です。

・「人物」とは、歴史上の人物もおりますが、特に重要なのが現在の生活者である人物資源です。

この3つの資源をバランスよく活用することが重要ですが、過去の世博会をみると「人物」の活用が軽視されてきた傾向にあります。

しかし、9月に閉幕した愛知万博は世博会史上最大の市民・NGO・NPOの参加があり、私は高く評価しています。

## 2. 「世博会組織の人材」の活用

これは世博会に限ったことでなく、地方自治体や企業の活性化にも共通する手法です。

私が長年地方自治体の新事業計画の組織づくりの際や大型イベントの組織づくりの際に「1人のキチガイと10人のバカ」を選定・活用しなさいとアドバイスしてきました。

この“キチガイ”や“バカ”は日本では差別用語として使用を控えておりますが、今日は分かりやすくするために使います。

・「1人のキチガイ」とは、テーマにこだわる人物です。例えば、2010年の上海世博会のテーマ「都市・より良い生活」の具現化に徹底して拘る人物です。すなわち世博会のテーマを具現化する時、沢山のアイデアが出されます。その際、なんでも採用したのでは観客からみて世博会が何を訴えたいのか見えてきません。そこでテーマに合わないアイデアを除外する勇気が必要となります。しかし、これは簡単なことではありません。例えば国の上層部や自分の上司から出されたアイデアを除外するには大変な勇気がいるからです。このキーマンの選定とその人物の働きやすい環境づくりが重要となります。

・「10のバカ」とは、キチガイが一人で独走したのでは彼が浮いてしまい孤立して組織が機能しません。そこでキチガイに従う10人の人物が必要となります。しかし、この10人が単なるバカでは困ります。

日本のある都市で地方博覧会を開催する際にアドバイスを依頼されましたが、実行委員会の組織図を見て唖然としました。それはその県庁の部課長や地域の顔役など肩書きで選出された人物で構成されていたからです。それも全員が男性でした。

日本ではこれを「肩書き人事」と言ってどこでも見られる古い体質です。これでは観客が感動する博覧会は無理です。

実はキチガイの選定も重要ですが10のバカの選定が鍵となります。

10人を次ぎのように選定します。

- ・3人は女性です。これは年齢に関係なく女性の視点を重要と考えるからです。
- ・3人は若者です。ここで言う若者は40代以下の人物です。現在中国ではアニメが若者に人気がありますが、この感性はたとえ肩書きがある人物といえども50代60代の人物に求めることは困難だからです。
- ・残りの4人は肩書きのある人物でOKです。なぜなら人生経験が豊かであり沢山の引き出しを持っております。当然人脈も豊富ですから各方面への影響力や根回しがしやすいからです。

### 3. 「市民」の活用

先にも述べましたが、市民の参加としては愛知万博は成功したと思います。しかし、本当の成功はこれからです。愛知県及び名古屋の地域住民が世博会で得た「やる気」や「人脈」を継続して活かすことが出来るか否かです。これが出来て初めて愛知万博が成功と言えます。本当の評価はこれからです。

また、私が重要視している課題があります。

それは上海世博会のテーマ「都市・より良い生活」とはどのような絵となるのかということです。都市のテーマはその領域が大変広く、環境問題や高齢化を含めて世界共通の課題でもあります。“21 世紀の都市とはどうあるのか？ その生活はどうあったら快適なのか？” 都市と農村の協働とは？

2010年の開催時に展示するには2010年以降の未来都市と生活を展示しないと感動は得られないでしょう。それを現時点で誰が予測するのでしょうか。それには生活者に夢を語らせることも良いでしょう。

愛知万博の市民参加実例は参考になるでしょう。

また私はこんな案も考えています。

上海世博会の来場者目標 7000 万人と地域住民との交流を考え「我が家も展示館」構想です。市民はそれぞれ趣味を持っております、それは中国伝統の書道であり、絵画であり、舞踊であり、太極拳であり、茶道であり、将棋や囲碁など多彩です。そこで我が家を開放して自分の自慢を展示して来客者と交流することが出来ないだろうかと考えています。物理的課題は多々ありますが、この考えのベースとなるのが上海市全域が世博会会場であり、黄浦江兩岸地域の開催予定地はそのシンボルゾーンであると私は考えているからです。

最後になりますが、“都市活性化”とは“地域住民の活性化”であり「地域住民の“やる気”起こし」であるという考えが私の持論です。

従って「起こし」とは「己」が「走る」と書きます。

地域住民の一人一人が目標（テーマ）に向かって自ら取り組む熱意とその熱意を活かせるシステムを含めた環境づくりが重要となります。

また世博会では“跡地利用”が計画されますが、過去の世博会で軽視されてきたのが「後人活用」です。世博会には多くの人材が育ちます。しかし、その後の活用のシステムがないから「やる気」の熱が冷めてしまいます。これでは世博会の成功は半減されます。2010 年上海世博会では、この「後人活用」を計画段階から考えておくよう提言しておきます。